

# 保育かながわ

発行所  
横浜市神奈川区沢渡4の2  
神奈川県保育会

発行人  
富田英雄  
題字  
故内山岩太郎 筆



## 子どもたちの未来のために

神奈川県副知事 室谷千英

今年に戦後五十年。あの瓦礫の中から再出発した我が国は、不況とは申しながら、世界有数の経済大国として、繁栄を謳歌しております。

しかし、そうした経済的な豊かさの一方で、人口の高齢化をはじめ、国際化、地球環境問題など、多様な課題が生じてきていることも事実です。

なかでも、皆様にも、ご心配をいただいている保育の関係では、少子化の傾向が、年々顕著になってきております。そのために、これまで、子どもたちが、子どもたちなりに、多様な人間関係の中で学んできた、さまざまなルールなどを身につけることが、たいへん難しくなっています。それだけに、家庭、保育園、地域社会が

手を携えて、子どもたちの発達や成長にとって大切な「ふれあい」の機会を与えていくことが重要だと思えます。

そこで、この十数年、県では、「ふれあい教育」運動を推進し、将来を担う子どもたちに、自然や人とのふれあいを通じて、感動する心や思いやりの気持ちを育て、ほしいと願ってまいりました。

子どもたちが保育園で過ごす期間は、そうした健やかな成長を支える、いわば土台づくりの時期ではないでしょうか。そうした意味で、日ごろから、神奈川の保育を支えていただいている皆様には、心から感謝しております。

大震災などでは、新しい立派なビルが倒壊してしまうことさえあります。そうしたなかで、先人

が心を込めて基礎からしっかりと築いた古い建物がびくともしないで残っていたことは、皆様もご承知のとおりです。人間の場合も、これと同様に、土台をきちんと築くことで、豊かな可能性を開花できるのではないのでしょうか。

皆様には、このように子どもたちの大切な時期を預かっていただき、財政環境のもとではございますが、出来る範囲で最善の努力をさせていただきます。皆様のお手伝いをしたいと存じます。

どうか、皆様には、県のこうした施策にも、引き続き、温かいご理解とお力添えを賜りますようお願いいたします。



## 保育は変わるのか 変えるのか

神奈川県保育会々長 富田 英雄

皆様には、日頃子ども達の件せの為に尽力いただくと共に、青少年をはじめとする地域住民の、福祉増進のために、施設の地域化や、地域育児センター等の諸事業を通して御努力いただき、感謝に耐えません。

女性の社会参加の進展や、就労形態の急激な変化は、保育ニーズを多様化させ「瞬きする間に保育園が様変わりしそうで勉強が追いつかない」と園長達を心配させています。この時に、児童福祉に御理解の深い飯田、室谷両氏が、同時に神奈川県副知事に就任された事は、私達保育者にとって福音であり、神奈川県の子どもの今後が明るく輝いて見え、その期待に胸が震えます。

さて保育園はどう変わって行くのでしょうか。福井新保育課長は、柴田前課長に比べて、ずっと官僚的なものいいですから「私達は、保育制度

の改革をやめたわけではありません。内部での検討は可成進んでいます。まだ皆さんに公表する迄には至っていません」という表現は柴田課長と変らないのに何だか近々のうちに、我々が想像もしない形に保育所がグイ、グイン、グイン、グインと恐ろしさを感じます。

緊急保育対策等五ヶ年事業のどのモデル事業でもよい、地域性もあることです。自分の保育園で、これならできる。ものを選んで積極的に取り組んでいただかないと、単年度を基本とする国の予算の基本を曲げて、五年間に亘って補助を継続することを約束したこの五ヶ年事業の意義が薄れます。

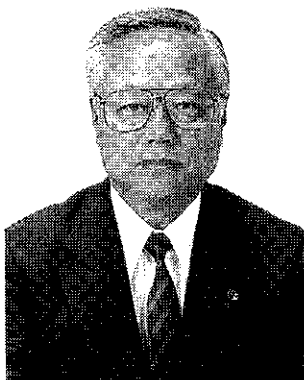
積極的にモデル事業取り組む保育園が少なく予算残が多ければ、来年以後の予算のスクラップも考えられますし、福井課長に「えらそうなる事

をいつたって出来やしないじゃないか」といわれそうなのがします。

七月二十六日付、老人保健福祉審議会が「新たな高齢者介護システムの確立について」という中間報告を出しましたが、年末には答申が出されると聞いています。又社会保障制度審議会の勧告でも、公的介護保険の創設について提言された事でもあり、高齢者介護システムは近々のうちに実施されると思います。私達保育関係者の多くは「介護保険は老人の問題で私達には関係ない」と無関心ですが中間報告をよく読んで見ると「次は保育所、内容も似たものになるよ」と言われている様に思えます。例えば「公費を財源と

にくい」などは保育も同じです。就中まだどの県に来るか解りませんが、今迄児童には一度も来た事のない行政監察が児童に来ます。しかも当初一月から三月の間を予定していたこの監察が、生保の監察をこの時期に行い児童は四月以後になります。措置制度の資料を集めてから児童に来るのでしょうか。まさに外堀は已に埋ったと感じます。今迄私達は厚生省のメニューに対し「補助金が少ない」といいながら無難にこなして来ました。そして保育はどう変わるんだろうかと心配しています。でも今は心配している時ではなくて「どう変えようか」と考え行動する時です。朝七時から夕方六時迄の開所時間延長促進事業や一時間の延長保育、一時的保育は神奈川県下の保育園ならどの施設でも出来ると思います。市の担当課長とよく話し合ってください。一日十三時間もの間保育園で生活する子ども達の親代りとなれるよう保育者の資質を高めながら、認可施設は当にならぬ等と、社会から見捨てられぬよう頑張りましょう。

子どもたちの屈託のない笑顔は、とかくギスギスしがちな大人の心に和らぎを与えてくれます。そのように子どもには不思議な力があります。現実には、子どもの持っている素晴らしさを大人の論理でゆがめてしまいがちになります。子どもが本来もっている素晴らしいものを大切にして、のび



のびと育つ環境づくりを目指したものと思っています。

少子化社会のなかでは、将来の経済社会への影響が懸念されるほか、子ども自身の健やかな成長にとっても少なからぬ影響が予想されているところでは、

国においては、昨年末の「エンゼルプラン」の策定、それに続く

「緊急保育対策等五か年事業」の実施により、本格的に少子化対策の取り組みを始めております。また、昨年来、「かながわ子ども未来計画(仮称)」を策定するため、検討委員の方々に鋭意ご検討をお願いしていたところ、今年三月に検討委員会から「子どもたちのたびだち」と題する提言をいただきました。現在、これをうけ

第二新神奈川計画・改定実施計画及びかながわ福祉プランなどを通じて、保育対策の推進に取り組んでまいりましたが、今後とも特にニーズの高い乳児保育、延長保

## 子どもの健やかな成長を願って

神奈川県福祉部長 久保 清 治

育等、市町村と緊密な連携をとって、基本計画、実施計画策定のた

つ、一層の充実を図ることとして、平成七年度からは、

民間の夜間保育所が、一か所増設されたところであり、また、特に早

朝や夕刻の保育ニーズに添えていただくために、開所時間延長促進事業を実施(十月から)したところ

であります。病後児保育サービス

ス事業につきましても、関係各機

## 地区紹介

### ◎足柄上地区

緑豊かで、空気が澄み、また、おいしい水が豊富にある私たちの地区には、山北町、開成町、松田町、大井町、中井町の五町。公立五園、民間四園、計九園で保育会及び保母会が組織されています。四月に総会や表彰式を行い年間計画に基づいて活動しています。

それぞれの園が立地条件を上手に利用して保育出来るのが特色あるゆえんだと思います。

園児と保母が一体となって、農作物を栽培し、収穫した物を調理して食べる。草花を育て、種子まで取って来年に備える。川遊びをしたり、小動物を飼うなど、それなりに工夫しているようです。

また、和太鼓、鼓笛隊を持っている園や、国際交流をめざして外国人に遊びに来ていただいたり、地域の老人会と交流をする等、楽しく生活出来るよう努力しているところでは、

# 神奈川県保育事業大会

## 於 神奈川県社会福祉会館

第29回神奈川県保育事業大会が去る五月二十日、神奈川県保育会、保母会主催、後援 神奈川県社会福祉協議会、共同募金会、県民間保育園協会により盛会の内にとり行われた。

「大きくふくらませる子どもたちの夢―すてきな保育所、そして私たち―」という大会主題を掲げ、今ほど、子育て支援や保育所の充実が叫ばれている時代はない。

### 第29回

親子の係わりを大切にし、子ども達の夢を大きくふくらませる為に、時代の要求にどう対応するべく研究討議を重ねるため、県下の保育関係者が一堂に会した。

この状況下に、

第一部 式典・開会。「花のおさなご」斉唱、児童憲章朗読と続き、富田会長の挨拶、「新しい保育のニーズに対応していく為に団結して、神奈川の保育をすすめていきたい。」永年勤続者一三八名(園長・保母・調理員)の表彰がとり行われた。

久保県福祉部長はじめ、来賓の方々の祝辞をいただき、式典を終了した。次に、保育会・保母会各々、総会がとり行われ、平成六年度事業報告と決算、平成七年度事業計画・予算を審議し、了承された。

第二部 研究討議、平成七年度全国共通テーマにより、第一会場「保育所職員の資質向上を旨として―主任保母に求められる役割と資質を考える―、第二会場「地域社会と交流をめざして―保育所における地域活動事業推進を考える―、第三会場「保育指針の実践をめざして―三才未満児の健康(歯)とよりよい環境

保育が子どもの「人権の尊重と自己実現」をめざして―……と。

についての発表があり、熱心に質疑応答がなされた。―神奈川県



### 地区紹介

#### ◎海老名地区

海老名市は県央に位置し、大山、丹沢を臨み、JR相模線、小田急線、相模鉄道の三線が交差する海老名駅を中心とした都市部、それを囲む、条理水田、ビニールハウス栽培の花弁(バラ・スイートピーなど、メロン・苺などの果実等)農住都市である。

人口は十一万三千人。保育園は公立五園、私立四園の計九園。

保母会員数は公立のみ四十余名。平成七年度は、県保母会、第三十一回体育祭が海老名市運動公園陸上競技場に於て、十月一日(日)に開催される。少ない会員数で一致団結し、準備をすすめている状況である。



### 第三六回

## 関東ブロック保育研究大会

「大きくふくらませる子どもたちの夢……」昨年と同じテーマで関東ブロック保育研究大会が七月五日から七月七日まで、梅雨の最中開催されました。一都十県三市から二〇〇〇余人の保育関係者が集い、変革期を向かえている今日にふさわしい熱のこもった三日間が繰り広げられました。

一日目は県民ホールで、三〇〇〇余名からなる横浜市コーラス員によるハーモニーで幕が上り、開会式、総会、基調講演、国際色豊かなトラクションと進められました。

基調講演は厚生省保育指導専門官鈴木岩雄氏により、「保育制度の今後の展望」と題して、エンゼルプラン、緊急保育対策等五か年事業等の行政説明がされました。

二日目は港周辺、十四会場に分科会が開催されました。各分科会

ではそれぞれのテーマに沿って、実践・意見発表、討議、それらに

市立しぶやがはら保育園々長河野チヨセ氏、第七分科会で秦野市・いまいずみ保育園々長草山充氏、保母会からは第十一分科会で綾瀬市保母会とそれぞれ発表し、好評を得ました。



かで、閉会式に臨みました。

最終日は再び県民ホールに会場を移し、山梨県岩崎保育園々長雨宮孝信氏が「子どものための地域幸住プランに向けて」と題する研究発表、続いて、作家椎名誠氏による記念講演「海の民族と草原の民族」がありました。新たな子どもへの視点を得るなかで、閉会式に臨みました。

対する助言がありました。神奈川県保母会からは第三分科会で藤沢

### 地区紹介

#### ◎横須賀地区

横須賀市は、平成五年に市長さんが、横山さんから沢田さんにかわりました。町づくりの方針は、「行ってみたい町、住んでみたい町、誇りに思う町」です。

平成七年七月一日現在の数字です。市の人口は、四三四、六九一名、その内就学前の子どもの数は、二二、五九七名です。市内には、公立一四、民間立二一の保育所があります。定員枠は三、〇五五名、充足率は八八・七パーセントです。

市の保母会では、行政との話しあい、保育事業大会、保育問題研究、研修事業、広報などの柱をたてて事業を進めています。役員が一〇名いて、係り制で、係りの人が起案↓役員会で協議↓実施といった会運営をおこなっています。計画された会合への会員の出席率はとても良好です。

第五回県下、市町村児童福祉主管課長と県保育会委員との保育懇談会が七月二十七日(木)、ホテルリッチ横浜の四階東の間にて開催された。来賓として県より佐藤児童福祉課長、石森児童福祉課長代理、市や町から、担当課長、あるいは代理が二十三名、県保育会より二十三名、県保母会より二名が出席した。

最初に富田会長より、主催者挨拶で、今まで以上に県と市町村、保育会とのつながりを太いパイプにしていきたい。また、「かながわ子ども未来計画(仮称)」の策定についての説明やエンゼルプランについて、現在どのように進展しているか等について忌憚なく話し合いたいという積極的な姿勢が示された。

次に来賓として佐藤児童福祉課長が挨拶され「子どもたちのたびだち」―子どもの人権の尊重と自己実現(ウェルビーイング)をめざして―という「かながわ子ども

## 市町村児童福祉主管課長と 保育会委員との保育懇談会



未来計画(仮称)検討委員会」から報告書をいただいた。それについて民間の保育園や保母さん、市町村の課長さんの意見を伺いたい。ということで資料に基づいて概略の説明があった。それに対して県の基本的な考えとして、かながわ子ども未来計画は、総合的・体系的な子ども・家庭サービスを提供できる体制の整備を計画的に推進することになるが、このうち『子どもたちのたびだち』の10の提案のうち②および⑦の「在宅子育て支援」「ひとり親家庭対策」「子育てと仕事の両立支援」に必要事業を盛り込む。もう一つ県は、各市町村と目標量やその提供体制について調整しつつ市町村計画を集約するとともに、市町村の掲げる目標量や提供体制の実現を支援するための推進方を盛り込み、県計画として策定するということであった。「策定スケジュール」について石森課長代理から説明があり、岡崎知事になられたの

で、県民の意見を十分聞いてからになると思うとのことであった。意見交換では特に駅型保育について話題が集中した。厚木、平塚、横須賀、鎌倉、藤沢、大和など、平成七年度に何ヶ所か設置する。保土ヶ谷とかにも動きがあり、各市町村でも注目して欲しいとの話題もあった。

また、都築保育会副会長から、「こども未来財団」のあらましについての説明や保育会委員から、保母の年令構成の問題、保育所の設置数の問題、病弱児対策、保育所の改築問題等の意見があった。その他、防災計画や対策についての提案などあり、盛り沢山の話題で予定の時間をオーバーした。懇親会の席で、本音の話や感想も出たりして、大変有意義な会となった。



# 平成七年度 保育会専門部会紹介

## 総務部

部長 都築 融光

スタッフの充実している総務部は、事務局との連携を密接にする  
と同時に各自が自分の役割をきち  
んと果たしてくれることに自信を  
得ています。各部の部長との連絡  
も充分に行いその活動を円滑にし  
ていくことに務めながら渉外活動  
をも十分に果たしております。

新しい保育の時代を迎えようと  
している今、県内保育所の充実  
は、県保育会の指導力を必要として  
おります。私達はその要となるべく  
がんばっていききたいと思えます。  
本県に於て平成九年に行われま  
す第四十一回全国保育研究大会  
は、県保育会の歴史の上に於いて  
最大のイベントであります。私達  
は今そこに遭遇したのです。そし

てこの大会を成功させる為、委員  
の皆さんの力を一つに集め、神奈  
川の保育の実践を全国に知らしめ  
る絶好の機会であり、又最高の歓  
迎をするために最大のお力をおし  
まないつもりでおります。その為  
に私達は委員の皆さんの手足とな  
ろうと考えております。よろしく  
ご協力をお願い申し上げます。

## 予算対策部

部長 岩澤 貞吉

保育制度の改革・エンゼルプラ  
ン・子ども未来計画・地方版エン  
ゼルプラン等、子ども達を取り巻  
く環境の変化に対応するよう、数  
々の子育て支援計画がなされ、既  
に実施されているものもあります  
が、計画や議論の段階では明らか  
が見え隠れしているようです。政  
治・経済を含む社会の様々の課題

は、予算対策活動を進める上にも  
焦点を絞り難い状況を作り出して  
います。子ども達が健やかに育つ  
ための保育環境の充実を基本に、

利用し易い保育所の運営が安定で  
きるよう予算対策活動を展開する  
必要があると思いますが、新たな  
柱として予算対策活動も重視した  
いと考えます。世の中の変化や実  
情を的確に知ることが、まず必要  
な課題で、特に地域から国に到る  
まで幅広い情報の中から予算対策  
に活かされるものを理解するとと  
もに、自身で努力すべき事を見極  
めていくための、情報交換の場と  
なればと感じています。

何卒今年度も様々の事情をご理  
解頂きまして、予算対策活動に関  
わる資金カンパに特段のご協力を  
下さいますよう、お願い致します。

## 研修部

部長 藤田 勝義

昨年度から研修部長に任命され  
今年度、二年目に入りましたが、

元来の非力に鞭打って務めさせて  
いただく所存です。

今年度の研修部会担当の研修会  
の構想は概ね次の通りです。

- ① 主任保母研修会（十一月、一泊研修。従来の「主任・中堅保母研修会」を分離）
  - ② 調理員研修会（一月、日帰り研修。於、県政総合センター、横浜東急ホテル―試食―）
  - ③ 園長研修会（二月、一昨年度より一泊研修）
  - ④ 中堅保母研修会（二月、日帰り研修）
- 以上につき今後それぞれの時期に開催通知を発送させていただきますが、一人でも多くの方々の参加及びご協力をお願い申し上げます。そして、より良い、より有益な研修会を目指して行こうと存じます。



## 調査研究部

部長 草山 充

保育園のための震災対策

調査研究部では、日頃、会員園

のためにタイムリーで本場に役立つものを発信したいと検討している。折しも、阪神・淡路大震災の犠牲によって、私たちは貴重な戒めを得た。我身に置き替えて乳幼児が在園する時刻の震災を想像してみると、空恐ろしい感じがしてならない。とにかく、人事の及ぶ限りの対策は採りたい、というのが、各部員の思いであった。

改めて震災対策を見直そうとしてみた時、そのお粗末さを措いても、保育園に即した震災対策情報が極めて少ない事が見えてきた。

そこで、県内各園の震(防)災対策の現状を、設備・備品・その他の項目を通してアンケート調査し、各園の貴重な工夫と努力の結果を報告書にまとめ、会員園に提供する準備にかかっている。

どうぞ御協力をお願いします。

## 公立専門委員会

委員長 亀谷 美代子

県保育会総務部に属している公

立専門委員会は組織化して、三期六年度を迎えています。昨年度からは全国保育協議会にある公立委員会の情報も直接得ることができるようになりました。

それぞれの市町村の組織の一部である公立保育所は、今求められている「利用しやすい保育所」としては動きが緩慢であるとの批判があるところですが、県下市町村を代表する十二人の委員の中では

情報交換を重ねる中で、認識を新たにしているところです。本年度は一、防災に対する各市町村の状況と今後の取り組み。二、エンゼルプラン、特別保育事業等の資料検討と各市町村の状況。三、二を踏まえての園長の役割等を柱に会を進めています。今後更に民間保

育所との協調と公立保育所の個別の役割を求めていると思います。ですのでよろしくお願いします。

## 給食問題研究委員会

委員長 生野 多恵子

保育所給食に、いまだ切ない内容

「乳児の栄養と保育所における離乳」について、日本総合愛育研究所の水野清子部長をお招きし昨年に続き講義と調理実習の研修会を、六月二十日県立かながわ女性センターで開催しました。希望者が多く、再度十一月二日、大和市の神奈川県学校給食会館にて行います。

これからも継続的に研修内容を深めていきたいと思います。

## 広報部

部長 亀谷 美代子

広報部の主な事業は「保育かながわ」を年間二回発行すること

です。部員は経験者、フレッシュマンあわせて八名です。本年度も諸事業が目白おし、国、県の人事異動等も伴い、保育制度に関することも気を許せない状況にあります。部会は初回から、積極的、主体的な部員によりまして、企画完了。各事業会場では記事とり、写真とりに忙しい部員の姿を目にすると思えます。このようにして、本年度も、保育会の活動をお知らせしようと思えますが、各地区の皆様からのニュースのためにおページを用意しておりますので、ご協力、よろしくお願い致します。

## 編集後記

暑くてお忙しい中をご執筆頂きました。副知事、福祉部長様はじめ、保育会会長の富田英雄先生、ほか各地区の皆様、本場に有り難うございました。多彩な行事が続きますが、皆さん元気で頑張りましょう。